

平成20年
4月1日
から

「麻しん」と「風しん」の 予防接種が変わります!

平成18年度から、麻しん風しん混合ワクチンによる1期、2期の2回接種が導入されました。

昨年、10代～20代の年齢層を中心として麻しんが流行し、多くの高校や大学が休校する事態となりました。その原因は、麻しんの予防接種を受けていなかった人や、受けても十分な免疫を保有

していない人が集団生活の環境下に一定程度いたため、麻しんの感染が拡大したことが分かりました。

そこで、平成20年度～平成24年度までの5年間、3期（中学1年生に相当する年齢）と4期（高校3年生に相当する年齢）が定期予防接種として追加されました。

●麻しん風しん予防接種対象者（定期）

- 1期……生後12カ月～生後24カ月未満
- 2期……小学校入学前の1年間（4月1日～翌年3月31日まで）にある人
- 3期……中学1年生（中学1年生の年齢に相当する人）
- 4期……高校3年生（高校3年生の年齢に相当する人）

※2期、3期、4期の対象者には、個別通知にてお知らせする予定です。

歯ッピーキッズ

3歳児健診時「むし歯なし」の子

2月22日（金）に菊池会場で、2月28日（木）に七城会場で、それぞれ3歳児健診がありました。歯科検診の結果、むし歯がなかった子どもさんをご紹介します。（敬称略）

菊池会場
 新郷太基（菊中町）
 城 琉之（菊戸城）
 堀本琢真（菊下赤星）
 米山 優（菊上赤星）
 小牧 舞（菊富納）

七城会場
 本田 昂（七加恵）
 木山琉聖（七梶迫）
 山川小南海（七流川）
 田代嗣恩（七本村）
 安永美味（七蟹穴）
 内田来海（七雇用促進）
 坂本弥優（七下西寺）

むし歯予防のためには、家族ぐるみで取り組むことがとても重要です。これからは「甘いものを控えること」、「歯みがきをすること」、「歯を強くすること」、「定期健診を受けること」を心がけ、むし歯ゼロで頑張りましょう。

今回むし歯があったお子さんは、なるべく早く歯科医院を受診しましょう。

麻しん (はしか) に注意しましょう

報告数が2,200人にのぼり流行の兆しが出ています。例年、春先から初夏にかけて流行し、5月ごろに最盛期を迎えることから、感染の拡大を防ぐために一層の注意が必要です。

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる小児期に多い急性の感染症として知られています。しかし、今年に入ってから10代～20代の若年者間での感染が多くみられ、全国の麻しん患者の

問い合わせ先 健康推進課健康推進係 ☎(25)7219

症状

発熱、せき、鼻水、めやに、発疹（ひとつひとつは円形でなく不正形で次第に融合し、網目状になる）を主症状とします。一般的に麻しんの症状は、カタル期、発疹期、回復期の3つの時期に分けられます（典型的な経過をとらない場合もあります）。

○カタル期

3～4日の発熱とともに咳、鼻汁、くしゃみ、目やに、眼瞼結膜充血、まぶしさを訴えます（この時期の感染力が最も強い）。

○発疹期

カタル期の発熱がやや下降したころ再び高熱が出て、症状がさらにひどくなり、麻しん特有の発疹が全身に出現します（典型的な麻しんの場合）。

○回復期

発熱は次第に下降し、発疹も退色し、落屑（発疹があった場所の皮膚の皮がはげ落ちる）を見ます。

●主な合併症

気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に2人の割合で発生がみられます。

また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約5万例に1例発生します。さらに、麻しんにかかった人は、数千人に1人の割合で死亡することがあると言われています。

感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、直接接触で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症します。※空気感染とは、ウイルスや細菌が空気中に飛び出し、1mを超えて人に感染することです。

潜伏・感染期間

潜伏期間は、平均10日前後、発疹発現まで約14日です。感染期間は、平均すると発疹出現4日前から出現後5日までで、特にカタル期が最も感染力が強くなります。

予防法

基本的には、麻しんワクチンの接種を行うことと、感染者との接触を避けることです。

■具体的には、次のことに留意してください

麻しんワクチンの接種の有無を母子健康手帳で確認しましょう。麻しんワクチン未接種で麻しんにかかっている人は、なるべく早く予防接種を受けることをお勧めします。

ただし、**定期の予防接種に該当する人以外は任意接種となり、接種費用は自費となります。**

※次ページの「平成20年4月1日から「麻しん」と「風しん」の予防接種が変わります！」をご覧ください。

■学生の皆さんへ

毎朝、登校前に自宅にて体温を測り、37.5℃以上の発熱を認めた場合は、必ず理由を学校に報告の上、できるだけ欠席してください。

特に校内で1人でも発生している場合は、欠席し医療機関を受診しましょう。



体温を測り、37.5℃以上の発熱を認めた場合は、できるだけ休暇を取ってください。また、早めに医療機関を受診しましょう。

■医療機関を受診する場合

直接受診せずに、あらかじめ電話で麻しんの可能性があることを伝えてから受診しましょう。他の人への感染を未然に防ぐため、医療機関に知らせておくことが大切です。